

## TEAP テスト問題と新学習指導要領の比較

### <概要>

公益財団法人英語検定協会（以降 英検）による TEAP テスト問題と旧学習指導要領（2013年度施行）の高等学校外国語（英語）の分析で、コミュニケーション英語 I、II、III、英語表現 I、II 各科目の「目標」、「内容」、「内容の取扱い」と TEAP テスト項目間の話題、必要とされる能力等で整合性が高いことが示された。本稿では現行の高等学校外国語（英語）学習指導要領（2018年公示・2022年度施行）の英語コミュニケーション、論理・表現各科目の「目標」、「内容」、「内容の取扱い」と TEAP テスト項目の比較分析を試みた研究の途中報告をする。

### <はじめに>

TEAP テストは高等学校における日常の英語学習を踏まえながら大学のアカデミックな場面での4技能における英語運用能力（CEFRのA2-B2レベル）を測定するテストであり、文科省に提出された資料で TEAP は4技能における英語運用能力の育成を推進する高等学校指導要領の趣旨に沿った内容であることが明記された（公益財団法人英語検定協会、文部科学省、2016）。具体的には TEAP で取り扱われている分野や話題はアカデミックな場面で遭遇する可能性の高いもの、例えば、教育、経済、歴史、文学、芸術等が扱われていること、またテストの出題はコミュニケーション英語 I、II、III、英語表現 I、II 各科目の「2内容」の(1)に記載されている言語活動との関連を踏まえ、場面・状況の適切さ、話題・題材の広さ、内

容の抽象度の違いなどを考慮した上で作成され、多様な形式で出題されていることが挙げられる。

### <研究課題>

本研究の目的は現行の学習指導要領（2022年度施行）の英語コミュニケーション、論理・表現各科目の「目標」、「内容」、「内容の取扱い」と TEAP テストの項目の比較分析である。本稿においては英語コミュニケーション科目における「目標」との整合性の分析結果の報告をする。

### <研究方法>

TEAP の公開見本問題の Listening、Reading の設問と高校学習指導要領（2022年施行）の英語コミュニケーション I、II、III の「聞くこと」と「読むこと」の「目標」の分析を行った。

英語コミュニケーション I の目標は4技能5領域において「多くの支援を活用すれば〇〇ができるようにする」、II の目標は「一定の支援を活用すれば〇〇することができるようにする」、III の目標は「支援をほとんど活用しなくても〇〇することができるようにする」と記載されている。テストを受験する際は「多くの支援」、「一定の支援」を受けることができない、また高校での英語学習の最終段階であることから英語コミュニケーション III の目標を TEAP の問題との分析対象とした。

学習指導要領（2022年度施行）の英語コミュニケーション III の1目標（1）聞くこと、

(2) 「読むこと」の目標は次の通りである。

\*\*\*\*\*

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど使用しなくても、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて支援をほとんど使用しなくても、必要な情報を読み取り、文書の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど使用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(文部科学省, 2018)

\*\*\*\*\*

次に TEAP テストの項目を紹介する。ウェブで公開されている Listening 問題、Reading 問題の大問、テキストタイプ、問題数は次の通りである。

大問	テキストタイプ	問題数
Part 1A	短い会話の聞き取り	10
Part 1B	パッセージの聞き取り	10
Part 1C	パッセージの聞き取り	5

Part 2A	長い会話の聞き取り	9
Part 2B	長い会話の聞き取り	16

表1 TEAP Listening 問題

大問	テキストタイプ	問題数
Part 1	語彙	20
Part 2A	図表	5
Part 2B	掲示、Eメール、パラグラフ単位のパッセージ	5
Part 2C	物語、説明、評論、論説	10
Part 3A	物語、説明、評論、論説	8
Part 3B	物語、説明、評論、論説	12

表2 TEAP Reading 問題

大問の各設問で学習指導要領のどの話題を扱っているか、また回答のためにはどのような能力を必要としているかを分析した。

<結果と考察>

TEAP Listening 問題と指導要領目標「聞くこと」の分析結果は次の表3の通りである。

大問	テキストタイプ	問題数	目標 ア・イ
Part 1A	短い会話の聞き取り	10	ア 10
Part 1B	パッセージの聞き取り	10	ア 5 イ 5
Part 1C	パッセージの聞き取り	5	ア 1 イ 4
Part 2A	長い会話の聞き取り	9	ア 9
Part 2B	長い会話の聞き取り	16	ア 12 イ 4

表3 TEAP Listening 問題と「聞くこと」の比較

上記の表の「目標」の段が学習指導要領のア・イのどちらに該当しているかを示している。アに該当する設問が多いが、これは TEAP の多くの設問が会話、また大学での授業履修などについての内容が多く、アの「日常的な話題」に該当するからである。また必要とされる能力においてアは「必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する」、イは「必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる」であるが「概要や要点」、さらに学習指導要領への記載はないが「詳細な点」を問うものが多く、「話し手の意図を把握する」設問はあまり見られなかった。

次に TEAP の Reading 設問と指導要領「読むこと」を比較結果は次の表の通りである。

大問	テキストタイプ	問題数	目標
Part 1	語彙	20	該当しない
Part 2A	図表	5	イ 5
Part 2B	掲示、Eメール、パラグラフ単位のパッセージ	5	ア 5
Part 2C	物語、説明、評論、論説	10	ア 2 イ 8
Part 3A	物語、説明、評論、論説	8	イ 8
Part 3B	物語、説明、評論、論説	12	イ 12

表 4 TEAP Reading 設問と「読むこと」の比較 1

TEAP のリーディングの設問と「読むこと」の比較においても上記の表の「目標」のア、イで示されている通りに「日常的な話

題」、「社会的な話題」で分類をした。図表、掲示、論説などのテキストタイプではアの「日常的な話題」よりもイの「社会的な話題」が多いことが明らかであった。アの「必要な情報を聞き取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする」、イの「文章の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする」に関してはアに記載されている必要とされている能力に該当する項目は見られなかった。そこでイを「文章の展開に注意する」、「概要や要点」、「詳細」に分けて分析した。その結果は表 5 の「必要な能力」の段をご参照いただきたい。

大問	テキストタイプ	問題数	目標	必要な能力
Part 2A	図表	5	イ 5	該当しない
Part 2C	物語、説明、評論、論説	10	イ 8	概要・要点 6 詳細 2
Part 3A	物語、説明、評論、論説	8	イ 8	文章の展開 8
Part 3B	物語、説明、評論、論説	12	イ 12	概要・要点 7 詳細 5

表 5 TEAP Reading 設問と「読むこと」の比較 2

Part 3A が「文章の展開」が必要とされる能力と記載されているのは Part 3A の設問がすべて穴埋めの問題であり、「必要な情報を聞き取る」「概要や要点、詳細を目的に応じて捉える」ことよりも求められている能

力が「文章の展開」と考えたからである。他の大問をみても各設問において「概要や要点」を問うもの、「詳細を問う」ものがバランスよく出題されていることがわかった。

<結論と今後の課題>

今回の分析にあたり、TEAP の設問の話題は「日常的な話題」「社会的な話題」のバランスよく出題されていることがわかった。しかし「日常的な話題」のほとんどが単位取得等、大学生活に関する内容であり、高校生にとっては馴染のない話題が多く見受けられた。高校生の受験においては話題の内容を変更することも必要であると考えられる。

また Reading 設問の分析においては「概要・要点」、「詳細」を問う設問がバランスよく考案されていることが明らかになった。

今回の分析において、学習指導要領の目的のア、イの項目と TEAP の設問に照らし合わせて分析した。各目的が「話題」と「必要とされている能力」を記載しており、今回は「話題」を軸にして分類をしたが「必要とされる能力」を軸にして分類をする必要があると考えられる。また「聞くこと」に関しては「話し手の意図の把握」、「概要や要点を目的に応じて捉える」の違いなどをどのように解釈するかを明確にすることが必要であることが明らかとなった。上記の点に留意しながらさらなる分析を続けたい。

<参考文献>

・公益財団法人英語検定協会 高等学校学習指導要領との整合性（試験名：Test of English for Academic purposes (TEAP)

・文部科学省(2016) 資料7 英語の資格・検定試験に関する基礎資料

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/ch](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/ch)

[ousa/shotou/117/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/05/24/1368985\\_15\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/shotou/117/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/05/24/1368985_15_1.pdf)

・文部科学省(2018)高等学校学習指導要領（平成30年度告示）

[https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt\\_kyoiku02-100002604\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf)